
蒼の教室

黒湊夏葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蒼の教室

【Nコード】

N3480B

【作者名】

黒淵夏葉

【あらすじ】

名前が一字違いの私とあいつ。顔も知らない相手をお互いライバル視するばかり。しかしついに高校3年生で同じクラスに！何かが起こる予感…。

1・あいつ

「優美、クラス発表見た？あいつと同じクラスだよ」

透き通って宇宙まで見えてしまっくんじゃないかと思う程綺麗な蒼が、街並みを優しく包み込む。

遠くに浮かぶ綿菓子みたいな雲は、花びらの形に見えた。桜の代わりに魅せてくれているようだ。

今年は冬が明けるのが少し遅遅く、3月の中頃でも雪がぱらつく日があった。そのため、桜の開花が遅れていて、始業式の今日もまだ蕾が膨らんだ状態だ。少しピンクが顔を覗かせているものもあるけれど、花見が出来るようになるのは、まだ当分先になるだろう。

そんな中庭の桜の木をぼうっと眺めていた私は、背後から声をかけられて振り向いた。

「小百合、おはよう」

声の主は、幼馴染みの小百合だった。

「おはよう。それよりクラス発表見たの？」

「うっん、まだ」

「…そう。じゃ自分でちゃんと見てきたら？」

小百合は呆れたように小さくため息をついた。

私は小百合に付き添われ、掲示板の方へ向かった。

掲示板の前には人だかりが出来ている。

私は人混みをかきわけ、前の方に行くと、3年生の掲示板に目をやる。クラスはAからEまであるので、Aから順番に見ていく。

「あつた！」

C組に名前を見つけて思わず指を差した。…と、よく見ると

『天野優司』

違った…。また間違えた。

そしてよくその横を見てみると…

『天野優美』

あった！…ということは…

「同じクラス！？」

今度は思わず叫んでしまった。

一番恐れていたことがついに起こってしまった。よりによって同じクラスとは…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3480b/>

蒼の教室

2011年1月27日04時16分発行